



太陽の子保育園2021年5月号

入園・進級より一ヶ月余り経ちました。子どもたちは新しいお友達や先生との出会いに胸躍らせる一方、はりきりすぎたり、不安を感じたりして、心身ともに疲れやすくなっています。子どもとしっかり向き合う時間を大切にし、お子さんの話に耳を傾けるゆとりをもって接してあげてください。



薄着になつたらトイレトレーニング

薄着になって着替えがしやすく、トイレトレーニングを始めるのにいい季節になりました。おうちで取り組むときのポイントは…

- トイレを楽しい場所に
- 他の子と比較しない
- とにかくほめる

好きなキャラクターのマットを敷いたり、照明を明るいものに変えるなど、行きたくなる場所にしてみましょう

お子さんのペースで、焦らず取り組みましょう。「〇〇ちゃんはもうできるよ」など、自信をなくすような声かけはNG

自分でできた」という自信を育てる大切なステップです。小さな成功をたくさんほめてあげましょう

下着が健康を守つているってホント?

シャツやブラウスの下に1枚、下着を着ていますか? 「別に着なくても一緒にしょ」という人! 実は下着には、こんなに大切な役目があるのです。

ココがスゴイ!

はだ肌の“きれい”をキープ

からだからは毎日、汗やあぶらなどの汚れが出ていきます。下着はそれらを吸い取って、肌の清潔を保ってくれているのです。

暑い! 寒い! を過ごしやすく

暑いときは汗を吸って肌をサラサラに。反対に寒いときは、体の熱を逃がさないようキープ。暑い日も寒い日も下着のおかげで快適にいられるのです。

送迎の際は、アルコールでの手指の消毒をお願いします
(McDonal's)。◆◆



歯科検診

5月27日(木)です。虫歯があるか、かみ合わせに問題がないか等も見ます。また、歯の清掃状態もみます。歯磨きをきちんとして登園しましょう。

こんなときだから

おうちの方も心と体を大切に

- 入** 園・進級から1ヶ月。「お兄さん・お姉さんだから」とがんばっていた子が、お疲れモードになる時期ですが…
- 感** ロナの影響でお仕事の時間帯や働き方、環境が変わった保護者の方もいらっしゃると思います。お疲れは出ていませんか?
- ま** 染対策を徹底することは大切ですが、過敏になりすぎるのもストレスの原因に。まずは、おうちの方も“よく食べ・よく寝て”くださいね。
- が** た「イライラしてきつく当たってしまった」「ひどい言い方をしてしまった」ということもあると思います。自分を責めず、そのあとの方オロで乗り切りましょう。
- なんばりすぎず、園でご協力できることがあれば、教えてくださいね。

～乳児ボツリヌス症～

ボツリヌス症

ボツリヌス菌によって引き起こされる病気をボツリヌス症と言います。ボツリヌス菌は土壤・河川・海洋に広く存在しています。

ボツリヌス菌の芽胞※は、低酸素状態に置かれると発芽・増殖が起こり、毒素が産生されます。

ボツリヌス症には3病型があります。

ボツリヌス食中毒

ボツリヌス菌に汚染された発酵食品内などが「酸素の少ない状態」になると、食品内で、芽胞が発芽し、ボツリヌス菌が増え、ボツリヌス毒素が作られます。そのボツリヌス毒素を食品とともに食べると、毒素が腸管で吸収され、ボツリヌス食中毒がひきおこされる。

乳児ボツリヌス症

ボツリヌス菌の芽胞を食べると、1歳未満の乳児の腸内で、「固い殻に閉じこもった種子のようなかたち」の芽胞から、「増えることができるかたち」になってボツリヌス菌が増殖し、乳児は自分の腸内でボツリヌス菌が作った毒素により、ボツリヌス症にかかります。

創傷ボツリヌス症

深部の傷にボツリヌス菌が感染し産生する毒素で起こる。



乳児ボツリヌス症とは

乳児ボツリヌス症は生後3週～6ヶ月の乳児に見られます。

1歳を越えると、正常な大腸細菌叢が形成され、発症しなくなります。

ボツリヌス症は神経麻痺症状が主で、対称性に麻痺が起こり、呼吸筋の麻痺にまで進行することがあります。

突然の発症から、数日かかるて徐々に発症する場合もあります。

乳児ボツリヌス症はボツリヌス芽胞を摂取し、腸管内で産生された毒素による発症で潜伏期間が3～30日と長いのが特徴です。

原因として菌または芽胞に汚染されたハチミツを飲み込むことで起こります。

初期に便秘、活気がない、哺乳不良、泣き声が弱い、さらに筋緊張性低下、よだれが多い、首のすわりが悪くなったり、眼球運動の麻痺、無呼吸などができるきます。

疑わしい場合、食品、便、血液からボツリヌス毒素を検出することで診断がつきます。

※芽胞とは

ボツリヌス菌、炭疽菌、破傷風菌などは、生存に適さない環境(高温、乾燥、栄養状態の悪化など)になると菌体内に芽胞という硬い殻の構造物を作つて長期間休眠状態を維持できる。増殖に適した環境になると発芽して菌体に戻ります。

芽胞は煮沸や冷凍処理、乾燥、アルコール消毒などの過酷な条件下でも完全には死滅しません。

1歳未満の乳児の腸内は、ボツリヌス菌が定着してしまう状態になっていることがあるため、大人が食べても健康に影響がない食品でも、乳児が食べると病気になることがあります。

ハチミツ、コーンシロップ、自家製の野菜ジュースなどはボツリヌス芽胞による汚染の可能性があるため、1歳未満の乳児に与えてはいけません。